

課題1

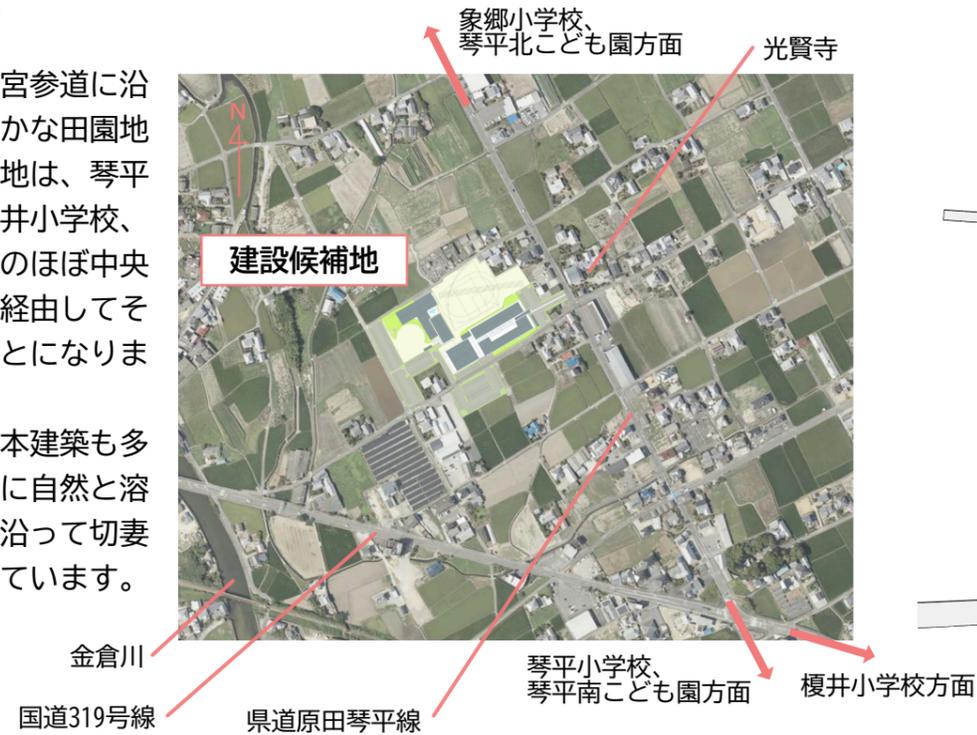
建設候補地における配置計画についての提案

敷地周辺環境

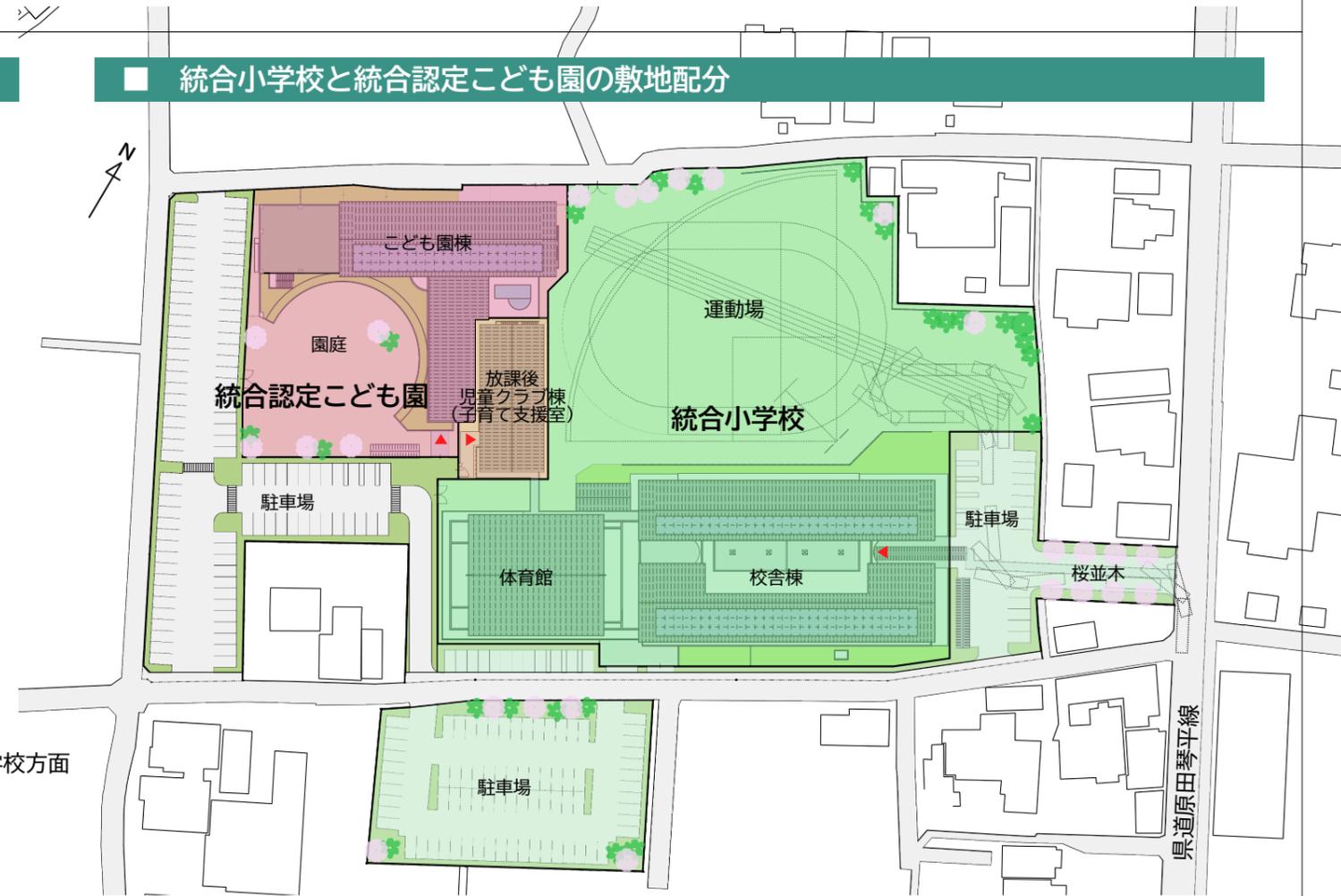
●周辺環境になじむ配置計画

建設候補地周辺は、金毘羅宮参道に沿う碁盤の目に区画されたのどかな田園地帯となっています。建設候補地は、琴平小学校、琴平南こども園、榎井小学校、象郷小学校、琴平北こども園のほぼ中央に位置し、県道原田琴平線を経由してそれぞれの地区と行き来することになります。

周辺には伝統的な瓦葺の日本建築も多く残っており、これらの建物に自然と溶け込めるように現状の区画に沿って切妻屋根の建物群を整然と配置しています。



統合小学校と統合認定こども園の敷地配分



計画概要

●統合小学校

- ・校舎棟：鉄筋コンクリート造3階建、体育館：鉄筋コンクリート造2階建
- ・敷地面積：約14,640㎡
- ・建築面積：約3,550㎡、運動場等面積：約6,530㎡、駐車場等面積：約4,200㎡
- ・延床面積：約6,730㎡（校舎棟：約5,400㎡、体育館：約990㎡、備蓄倉庫他：約340㎡）
- ・建蔽率：約24%（<70%）
- ・容積率：約46%（<200%）

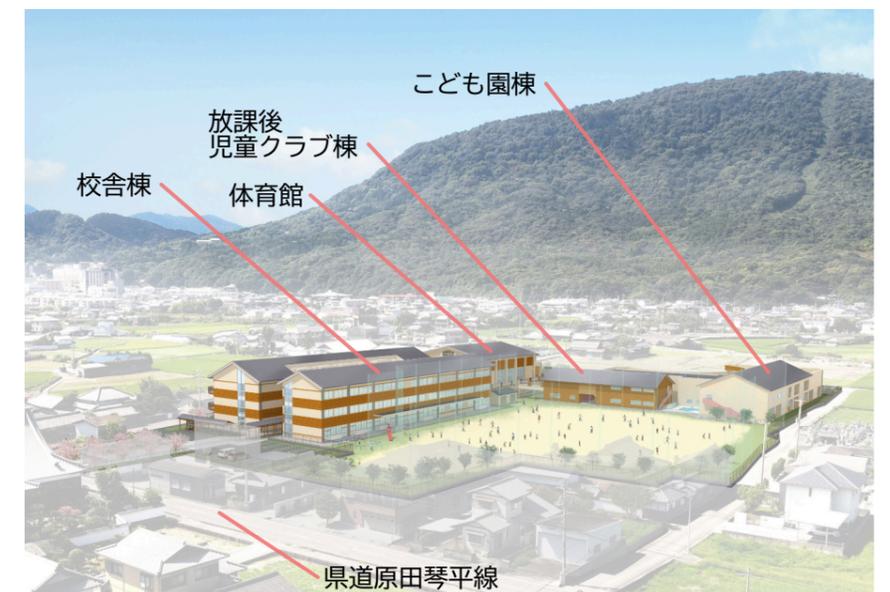
●統合認定こども園

- ・こども園棟：鉄骨造2階建、放課後児童クラブ棟：木造2階建
- ・敷地面積：約7,310㎡（こども園棟：約6,690㎡、放課後児童クラブ棟：約620㎡）
- ・建築面積：約1,960㎡（こども園棟：約1,570㎡、放課後児童クラブ棟：約380㎡、他：約10㎡）
- ・園庭等面積：約1,900㎡、駐車場等面積：約3,160㎡
- ・延床面積：約3,090㎡（こども園棟：約2,450㎡、放課後児童クラブ棟：約610㎡、他：約30㎡）
- ・建蔽率：約27%（<70%）
- ・容積率：約42%（<200%）

●建設候補地敷地形状と特性に合わせた敷地配分

県道原田琴平線を通して徒歩で通学する児童が多いと思われる統合小学校敷地は建設候補地の東寄りに計画し、県道と接続する細くなっている部分を桜並木の通学路とします。校舎棟と体育館を敷地南側に配置することで、全ての普通教室が南向きになっています。

自家用車での送迎が多いと思われる統合認定こども園敷地は建設候補地の西寄りに計画し、こども園棟と近接した位置に送迎用の駐車場を多く配置しています。統合小学校と統合認定こども園の間に子育て支援室を含む放課後児童クラブ棟を配置して、双方のスタッフやこどもたちが利用しやすいように配慮しています。



課題1

建設候補地における配置計画についての提案

■ 配置計画（安全管理、地域開放）

2階保育室からの避難

- ・2階保育室からの避難用に屋外階段の他、滑り台を設置します。
- ・放課後児童クラブ棟とは2階でつながっており、複数方向への避難が可能な計画とします。

建物入口・園庭への見通し

- ・職員室を入口と運動場に面して配し、運動場への見通しを確保するとともに不審者にいち早く対応できる配置とします。

●セキュリティ計画

- ・駐車場周囲の外周部は領域を明確にする目的でフェンスを設置しますが、周辺部に対して圧迫感のないよう1.2m高さとしします。
- ・セキュリティラインはコンクリート基礎を含めて2m高さのフェンスを設置し、不審者の侵入を防止します。
- ・門扉の設置は必要十分な箇所とし、必要以上の設置によるセキュリティの弱体化を防ぎます。
- ・管理諸室(職員室、事務室)から入口方向に対して見通しのよい設計とします。
- ・小学校校舎棟内は、行き止まりのない室配置とし、不審者の侵入時の避難経路を確保します。
- ・こども園棟は、外部に面してガラス張りの見通しのよい建具を用い、不審者の侵入を素早く把握し避難できる計画とします。

●地域開放について

- ・学校開放で主に利用が想定される体育館は、室内の校舎棟との間にパイプシャッターを設け、学校側とのセキュリティラインを確保します。
- ・地域学校協同活動、PTA活動等で利用する地域PTA活動エリアは、小学校とこども園をつなぐ位置に配し、双方との連携がとりやすい計画とします。
- ・子育て支援施設は駐車場に近接した1階エリアに設け、乳幼児連れの保護者が利用しやすい計画とします。
- ・子育て支援施設にはこどもトイレを設け、おむつ替えシート、幼児用便器等を設置します。
- ・上記エリアは独立した利用も想定し、単体でのセキュリティ確保も可能な設計とします。

●安全管理、地域開放の考え方

- ・児童、園児の安全を第一に計画します。
- ・管理部門から周辺状況への見通しを確保し、監視性を確保します。
- ・セキュリティを強化しながらも、地域住民に向けて閉鎖的にならない、地域とともにある学校となるよう計画します。
- ・緊急時にいち早く避難できるように、建物内から外部への複数の避難ルートを設定します。
- ・避難場所としての利用も想定し、防災拠点でありながら学校機能を保てる配置計画とします。

●避難所としての機能

- ・本施設は自然災害時の避難所としての役割が期待されており、構造部材の耐震性の確保、非構造部材の耐震対策等、必要な設計を行い施設の安全性を確保します。
- ・被災した地域住民の受け入れは主に体育館で行う想定とし、体育館エリアに備蓄倉庫を設けます。
- ・早期の学校教育活動の再開のため、避難所エリアである体育館と教育活動エリアである校舎棟との領域を明確にします。
- ・体育館棟は校舎棟と連続した配置ですが、出入り口は校舎棟とは別に独立して設け、避難所運営時の動線の交錯を防ぎます。

凡例

- フェンス（高さ1.5m+基礎0.5m）
- フェンス（高さ1.5m）
- 駐車場フェンス（高さ1.2m）
- 出入口チェーン

課題1

建設候補地における配置計画についての提案

■ 配置計画（交通計画、施設仕様）

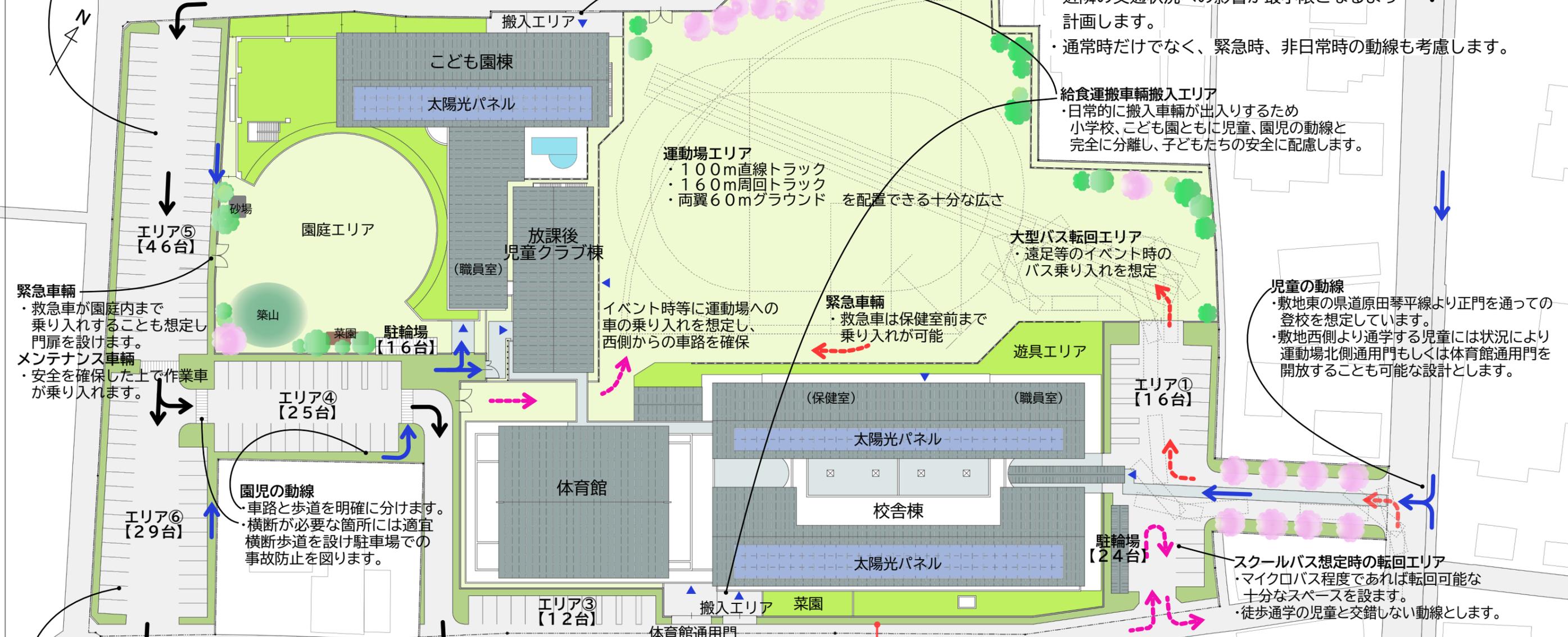
エリア⑤⑥の園庭から距離のある駐車場所は職員用駐車場とした場合、送迎車輛駐車場所は園庭からも見通せる配置となります。送迎車輛等の出入りに気づきやすく、園児の見守りがしやすい配置計画とします。

●交通計画の考え方

- ・歩行者（児童、園児、保護者等）の動線と車輛動線を明確に分けます。
- ・必要十分な駐車台数を確保します。
- ・近隣の交通状況への影響が最小限となるよう計画します。
- ・通常時だけでなく、緊急時、非日常時の動線も考慮します。

給食運搬車輛搬入エリア

・日常的に搬入車輛が出入りするため小学校、こども園ともに児童、園児の動線と完全に分離し、子どもたちの安全に配慮します。



緊急車輛
・救急車が園庭内まで乗り入れることも想定し門扉を設けます。
メンテナンス車輛
・安全を確保した上で作業車が乗り入れます。

園児の動線
・車路と歩道を明確に分けます。
・横断が必要な箇所には適宜横断歩道を設け駐車場で事故防止を図ります。

イベント時等に運動場への車の乗り入れを想定し、西側からの車路を確保

緊急車輛
・救急車は保健室前まで乗り入れが可能

児童の動線
・敷地東の県道原田琴平線より正門を通っての登校を想定しています。
・敷地西側より通学する児童には状況により運動場北側通用門もしくは体育館通用門を開放することも可能な設計とします。

スクールバス想定時の転回エリア
・マイクロバス程度であれば転回可能な十分なスペースを設めます。
・徒歩通学の児童と交錯しない動線とします。

駐車場は各エリアともに通り返りできる設計とします。送迎・イベント利用時に車の進行方向を限定することで、周辺道路の渋滞を抑制します。

道路幅員 6m
(敷地境界線より1.2m後退)

- 凡例**
- ← 歩行者動線（児童、園児等）
 - ← 一般車輛動線（教職員・送迎等）
 - ← 緊急車輛、大型バス動線
 - ← マイクロバス等動線

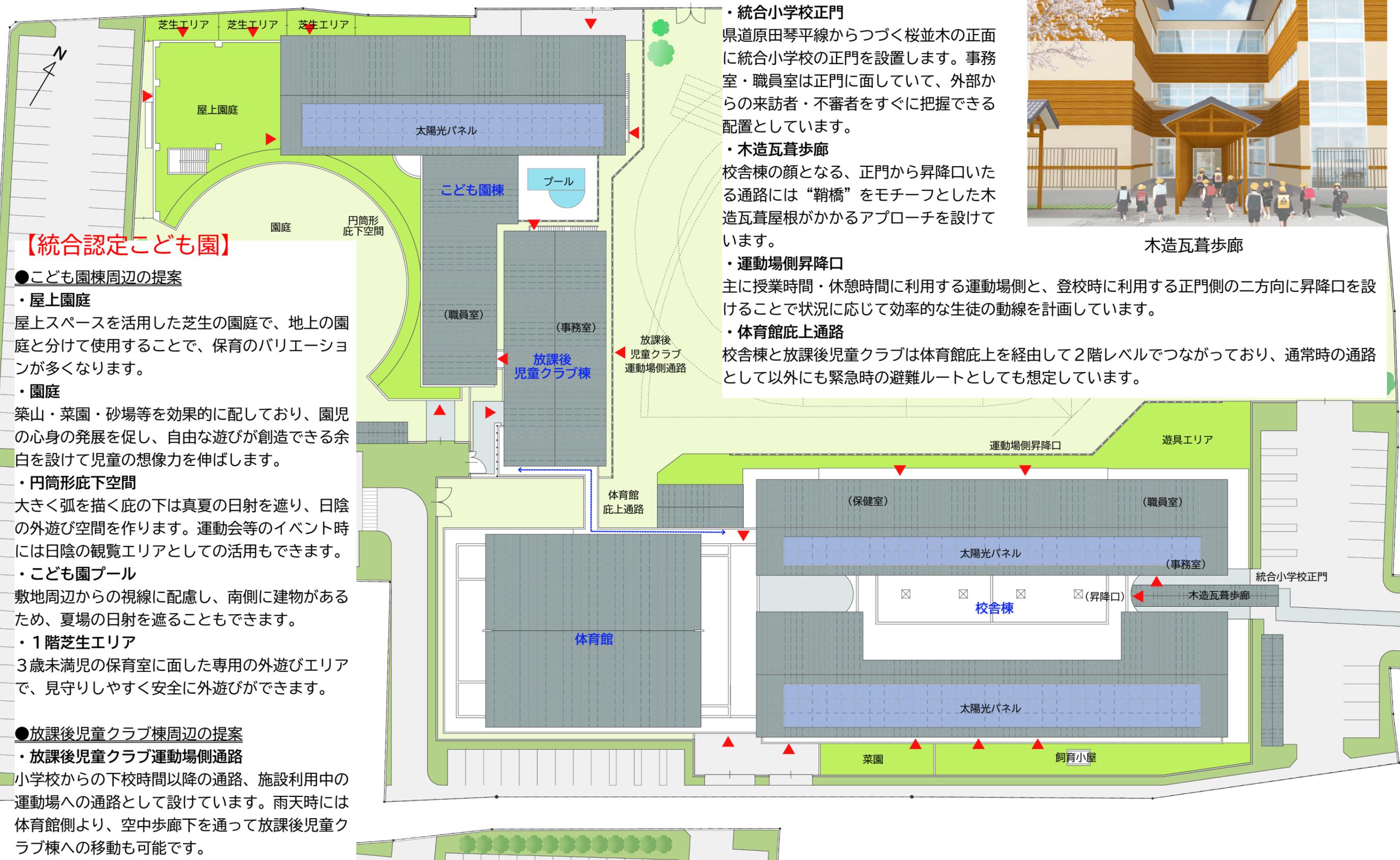
	一般駐車枠	多目的駐車枠	主な想定利用者
エリア①	11台	5台	来校者
エリア②	78台		小学校教職員
エリア③	9台	3台	体育館利用者
エリア④	22台	3台	こども園・放課後児童クラブ送迎 子育て支援室利用者
エリア⑤	46台		こども園送迎・こども園教職員
エリア⑥	29台		こども園教職員
計	195台	11台	
合計		206台	

※要求台数
小学校：教職員 約40台、来客・送迎等 約40台 計80台
こども園：教職員 約50台、来客・送迎等 約60台 計110台

課題2

基本構想・基本計画に即した建築・平面計画についての提案

■ 建築計画（平面計画）



【統合認定こども園】

●こども園棟周辺の提案

・屋上園庭

屋上スペースを活用した芝生の園庭で、地上の園庭と分けて使用することで、保育のバリエーションが多くなります。

・園庭

築山・菜園・砂場等を効果的に配しており、園児の心身の発展を促し、自由な遊びが創造できる余白を設けて児童の想像力を伸ばします。

・円筒形底下空間

大きく弧を描く庇の下は真夏の日射を遮り、日陰の外遊び空間を作ります。運動会等のイベント時には日陰の観覧エリアとしての活用もできます。

・こども園プール

敷地周辺からの視線に配慮し、南側に建物があるため、夏場の日射を遮ることもできます。

・1階芝生エリア

3歳未満児の保育室に面した専用の外遊びエリアで、見守りしやすく安全に外遊びができます。

●放課後児童クラブ棟周辺の提案

・放課後児童クラブ運動場側通路

小学校からの下校時間以降の通路、施設利用中の運動場への通路として設けています。雨天時には体育館側より、空中歩廊下を通して放課後児童クラブ棟への移動も可能です。

【統合小学校】

●校舎棟・体育館周辺の提案

・統合小学校正門

県道原田琴平線からつづく桜並木の正面に統合小学校の正門を設置します。事務室・職員室は正門に面していて、外部からの来訪者・不審者をすぐに把握できる配置としています。

・木造瓦葺歩廊

校舎棟の顔となる、正門から昇降口いたる通路には“鞆橋”をモチーフとした木造瓦葺屋根がかかるアプローチを設けています。

・運動場側昇降口

主に授業時間・休憩時間に利用する運動場側と、登校時に利用する正門側の二方向に昇降口を設けることで状況に応じて効率的な生徒の動線を計画しています。

・体育館底上通路

校舎棟と放課後児童クラブは体育館底上を経由して2階レベルでつながっており、通常時の通路として以外にも緊急時の避難ルートとしても想定しています。



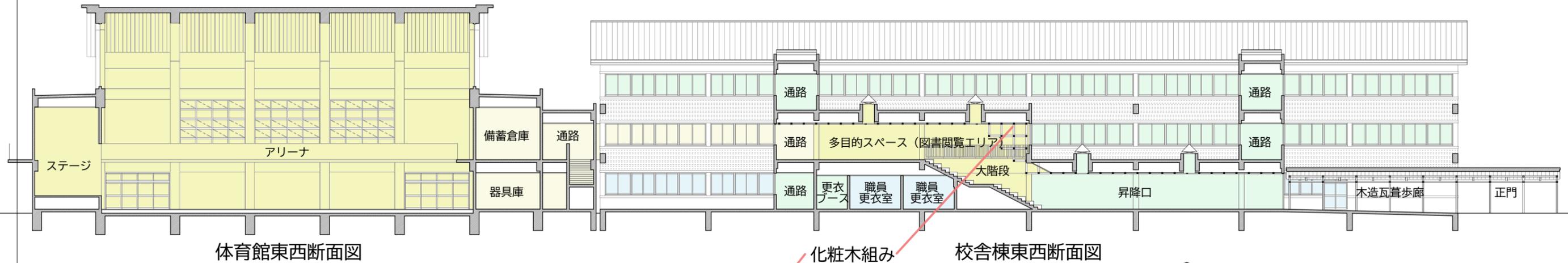
木造瓦葺歩廊

課題2

基本構想・基本計画に即した建築・平面計画についての提案

■ 建築計画（断面計画）

ことひらのまなび、あそび、たのしさ



体育館東西断面図

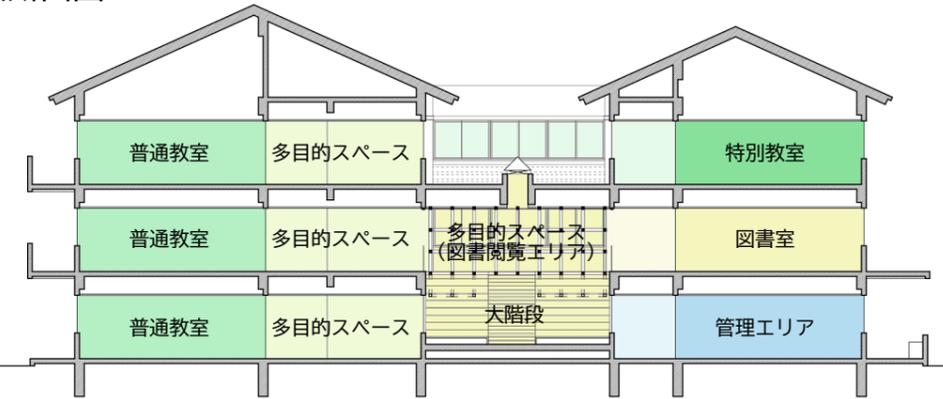
校舎棟東西断面図

●変化に富んだ内部空間の提案

桜並木から続く木造瓦葺歩廊を通過して統合小学校校舎棟に入ると、昇降口の奥に木製の大階段が広がっています。昇降口から2階の図書室・コンピューター室に続く幅約8mの大階段は、統合小学校の児童が歓談をしたり、本やその他のメディアを閲覧する多目的スペースとして活用することができます。式典時の記念写真撮影の場所としても適しています。大階段の天井付近には化粧木組みを配しています。体育館と同様に、図書室・コンピューター室を学校施設開放する場合には、体育館の2階通路から校舎棟2階の学校施設開放エリアに直接移動できるようになっています。



大階段



校舎棟南北断面図

校舎棟は2棟の切妻屋根建物が並ぶ構成となっており、この2棟は渡り廊下でつながれています。日当たりのよい南側の棟には普通教室が配置され、各教室の前には多目的スペースが用意されています。北側の棟には特別教室が配置され、その1階は運動場に面した職員室等の管理エリアとなります。

こども園棟の1階と2階の保育室の前には円筒形の大庇を設置しています。園庭を取り巻く大庇は暖色系の色彩でたのしさを強調する円柱で支えられ、夏の暑い時期には園庭の周辺に心地よい日陰を作ります。この大庇下は運動会のような機会には日陰の観覧場所となるように計画しています。



こども園棟南北断面図



園庭

課題2

基本構想・基本計画に即した建築・平面計画についての提案

2階平面計画

【統合小学校】

●校舎棟2階と体育館2階諸室の提案

・特別支援学級

各学年からアクセスしやすい中間階のエレベーターに近接した場所に配置しています。4室のうち1室は前室付きの防音仕様として、様々な特性の生徒に配慮しています。

・多目的スペース（図書閲覧エリア）

天井に設けたトップライトから明るい陽射しが降りそそぐ、1階の大階段から続く開放的な空間で、児童のメイン交流エリアとなります。授業内容により図書室・コンピューター室と一体で利用したり、休憩時間・雨天時の自由な活動の場としての利用を想定しています。

・大階段

屋外のアプローチの延長線上にあり、屋内と屋外を結ぶ校舎棟の芯となる部分です。図書室からの拡張スペースとしての利用や、昇降口も含めたホール的な利用、階段を活かして式典時の記念撮影の場としたり、複合的な用途での利用が可能です。天井付近には化粧木組みを配します。

・備蓄倉庫

災害時避難場所となる体育館アリーナの近くに設置します。備蓄物資の搬出入には校舎棟にあるエレベーターを利用できるように配慮しています。

・体育館更衣室

学校施設開放等で体育館を外部開放する際に利用できる更衣室です。授業時間中には児童が利用して、男女別の更衣に活用できます。

・空中歩廊

小学校とこども園をつなぐ通路であり、放課後児童クラブを利用する生徒はこの空中歩廊を通過して児童室に移動することができます。

【統合認定こども園】

●こども園棟2階諸室の提案

・保育室

各保育室には可動間仕切りを設け、保育内容により可変な空間としています。保育室内には作品コーナーを設置して、こどもの「壊さないで・見てほしい」に寄り添います。

・遊戯室

保育室と連続して設けていて、遊戯室単独での利用だけでなく、保育室との間の可動間仕切りを開放して大空間としての利用もできます。

・絵本コーナー

園児が自由に本に触れることができ、絵本を通じてこどもの知的好奇心を刺激し、想像力・思考力・言語力などのさまざまな力を伸ばす空間となります。

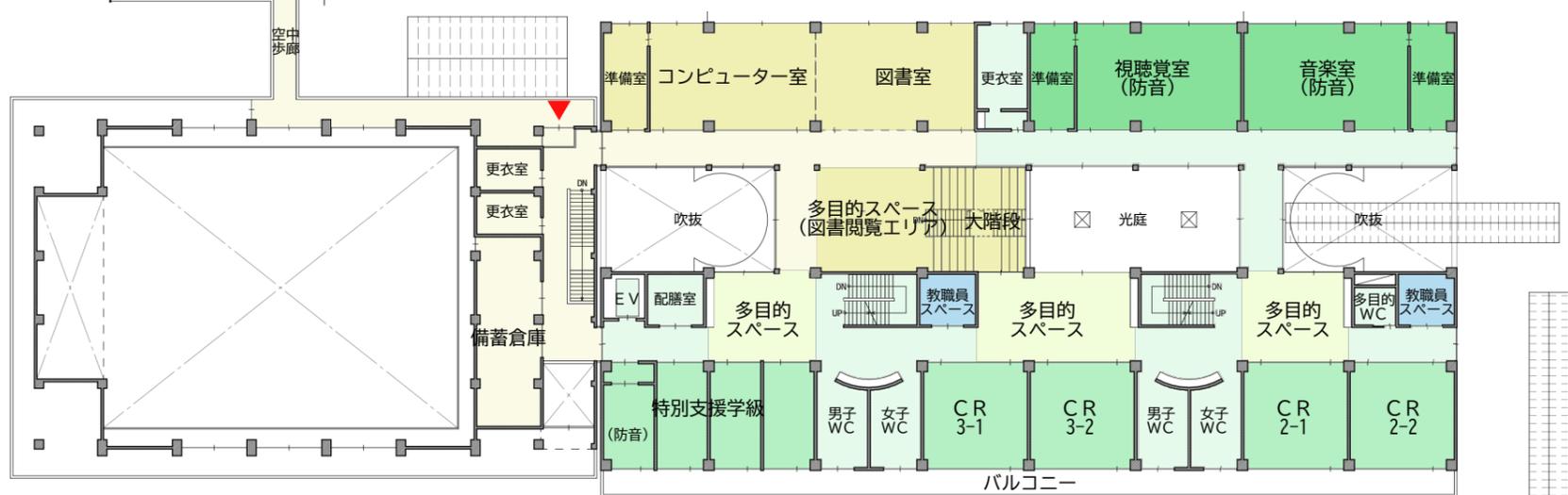
●放課後児童クラブ棟2階諸室の提案

・地域・PTA活動拠点室

小学校とこども園をつなぐエリアに設置し、地域住民や保護者が集いやすく、また学校、園とも連携の取りやすい配置としています。放課後児童クラブのイベント等での利用や地域・PTA活動等での夜間のこの室のみの独立した利用も想定して、教職員の負担軽減も図ります。



こども園棟
放課後児童クラブ棟
2階平面図



校舎棟2階平面図

課題2

基本構想・基本計画に即した建築・平面計画についての提案

■ 統合小学校立面計画

ことひらのまなび、あそび、たのしさ



校舎棟・体育館 南面立面図

●校舎棟・体育館外部仕上げの提案

- ・屋根は小学校棟、体育館、こども園棟ともに勾配屋根の瓦棒葺とし、南側には太陽光発電設備を設置します。
- ・ガラスは全ての棟において断熱性の高いものを選定し、必要に応じて飛散防止フィルムを施工するなど自然災害時も考慮します。
- ・外壁はコスト面を考慮して吹付仕上げとし、一部アクセントとして木目調ルーバーを採用します。
- ・バルコニーは1.2m高さの手すりを設けます。

■ 統合認定こども園立面計画



こども園棟 南面立面図



こども園棟 西面立面図



校舎棟 東面立面図

●こども園棟・放課後児童クラブ棟外部仕上げの提案

- ・屋上の一部は芝生の園庭とし、空間を有効活用します。屋上には安全対策として十分な高さの手すりを設けます。
- ・建物のシンボルとなる円筒形の大庇は木目調仕上げとし、小学校棟の木目調ルーバーと呼応する外観とします。
- ・放課後児童クラブ棟は全体を木目調サイディング張とし、無機質としないようにします。



▲南西より（左からこども園棟、体育館、校舎棟）